

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4393200029
法人名	有限会社 いずみ
事業所名	グループホーム 菜の花 苓北
訪問調査日	平成 19年 11月 14日
評価確定日	平成 19年 11月 22日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4393200029		
法人名	有限会社 いずみ		
事業所名	グループホーム 菜の花苓北		
所在地	熊本県天草郡苓北町志岐151-1 (電話) 0969-35-1881		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3-19-201		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成19年11月22日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人 非常勤2人 常勤換算(6.7)人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	315 円
	夕食	315 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.2歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	苓北医師会病院・苓北病院・慈恵病院・猪口医院・青砥歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

苓北町に今年4月に開設したばかりのグループホームである。広い敷地を活かして庭には手すり付きのしゃれた歩道が造られ、入居者の歩く訓練に一役買っている。入居者・全職員が町の住民であるため人の出入りも多く、地域との交流もさかんに行われており、まさに地域に密着したホームで、地域住民に対しての認知症啓発活動などを含め今後の貢献が期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回の評価である。入居者・職員共に町の住民であるため、馴染み過ぎの関係で、とすればプライバシーの尊厳が懸念される場面もある。法人代表・職員で勉強会を検討中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、自らのケアのふり返りの機会と捉え職員全員で取り組んでいる。評価結果については運営推進委員会や職員会議で取り上げ改善に向けた検討を予定している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進委員会のメンバーは数も多く、2班に分けて開催している。グループホームや認知症の説明・応急手当などグループホームからの説明が行われている。今後は運営・行事計画などよりグループホームの質を高めるような内容に発展する取り組みが望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の訪問は多く、要望や希望など気軽に話せる雰囲気作りに努めている。開設して日も浅いため地域との交流はスムーズに出来ているが家族の要望など、運営に反映できるまでには至っていない。今後は家族会の設立等を検討し、運営面やサービスの質の向上に反映できるような取り組みが期待される。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>職員全員が地域住民と言うこともあり、既に馴染みの関係もできている。グループホームが住宅地の中にあり、保育園や小学校とも近く、運動会などにも出かけている。外出時・イベント参加時などボランティアの手伝いも頻回にあり、日常的に交流を重ね、地域の中に自然に溶け込んでいる様子が窺える。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初は母体「菜の花」の理念を基に取り組んでいたが「菜の花苓北」独自の理念を職員全員で考え、その理念の基に地域にも啓発しながら取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は額に入れ玄関と居間に掲げている。職員会議においても話し合い、家族等の訪問時にも話している。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は全員地域住民であり、日頃より馴染んでおり地域情報にも詳しく、地域の行事には入居者と共に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施は職員全員で行い、外部評価の結果については全職員で話し合い改善に活かす用意がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会のメンバーは多く2班に分け、4月開設以来3回開催し、グループホームの説明や認知症についての話などを行っている。今年1年間は先ずグループホームや認知症について知ってもらう予定である。		

グループホーム 菜の花苓北

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が地域の包括センターの委員であること、また行政の職員が包括支援センターの職務を兼務しておりお互いの関係作りが出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族や親せきなどの訪問も多く、月1回は担当職員から入居者の心身の状況などを知らせる手紙を「菜の花便り」と一緒に家族に送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には声かけし、意見や相談しやすい雰囲気づくりに配慮している。またバーベキュー会をして家族同士の話や意見を聞いたりしている。		まだ開設まもないことですが、今後、家族会も設立して家族の意見など運営に活かせるような仕組みづくりにも期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設間もないことであり、職員の異動はない。今後異動や離職者があった場合には入居者の不穏につながらないように配慮をしていくつもりである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は業務に支障がないよう配慮しながら参加している。研修報告は会議の時にやっている。職員の資格取得についても運営者や管理者は協力的である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の別グループホームとの交流は行っているものの現在のところ地域間の交流までは、至っていない。		交流や学習会を通じて職員の自信や見直す機会にもなります。質の向上に向けた取り組みに期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に入居者・家族・担当のケアマネージャーに見学してもらっている。馴染むまで家族に泊まってもらった例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や調理など入居者がこれまで培ってきたことを尊重し、お互い学びあう気持ちで一緒に行うようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言葉や表情などから思いを把握し、また家族からの情報などでも思いや意向を把握してその実現に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては本人や家族の意向を聞きながら、担当職員や毎朝のミーティング、月1回の全体会議での話し合いを基に取り組んでいる。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	業務日誌や個別の経過記録・担当職員からの聞き取りなどでモニタリングを行い、さらに状況変化に応じて見直しをし、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、病院受診などの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれに入居前からのかかりつけ医での受診をしている。通院介助は職員・家族とそれぞれであるが、家族やホームへの報告はお互いに情報を共有し合っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りまで行うことを説明している。希望される家族からは同意を得ている。		重度化や終末期の方針については、関係者(入居者・家族・医師・管理者・職員)の方針の共有を常に望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議などで個人情報の取り扱いには充分気をつけるようしているものの、地域の職員・地域の入居者ゆえに言葉遣いなどでハットすることもある。		入居者の尊厳について会議等においても意識して話すなどの試みをしては如何でしょうか。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や入浴など入居者の気分や状況に即して柔軟な対応をしている。また希望に応じて買い物や散歩などの支援も行っている。		

グループホーム 菜の花苓北

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度から後片付けまで入居者と共に行っている。旬の食材を使ったメニューなども相談しあって調理している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度の入浴時間などは決めてあるが、入居者のその時の気分や状況に応じ柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者ひとり一人の経験・趣味・楽しみ事を把握し、声かけしながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の庭には手すり付きの道が造ってあり自由に歩け、側のベンチは入居者の団欒の場所になっている。また商店街が近く買い物にも何時でも行ける環境がある。外食・ドライブなど、戸外にはよく出かけている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関は施錠せずチャイムをつけ、職員の目配り、気配りで入居者の安全に配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区の防災訓練に参加したり、区の会議や運営推進会議で協力体制を依頼している。また津波想定でホーム全体で避難訓練をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェック表に記録し、病院受診の際に報告し、指示を仰いでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は和室の部屋も確保され広々としており、入居者はどこにいても充分にくつろげるようになっている。天井も高く日差しが差し込み、飾りつけも趣味がよくて共有空間全体が清潔感がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳の部屋であるがベッドが持ち込まれている部屋もある。仏壇・テレビ・たんすと入居者それぞれの部屋になっている。夫婦で入居の部屋は中を2部屋通して居間と寝室に分けた配慮も見られる。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム菜の花苓北
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県天草群苓北町志岐151-1
記入者名 (管理者)	浦本 幸代
記入日	平成19年10月26日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時は母体菜の花の「気を元気に五感に良い刺激を笑顔あふれる明るい菜の花」を基本に取り組んできたが、苓北独自の理念として、職員全員で作成した「その人らしく・自分らしく 思いやり・安らぎ・ありがとう・笑顔あふれる菜の花」の理念のもと取り組んでいる	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自理念の共有と実践にむけ関わりの振り返りに職場会議などで話し合い理解してもらっている	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内に掲示している	訪問時や契約時ご家族にはお伝えし、地域住民の方にも運営推進会議や視察研修時に口頭で伝えたり菜の花便りにも記載したい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板を回す時や散歩を兼ねて近所の商店へ買い物に出かけた時挨拶を交わしたり、話かけて頂き交流している。又運営推進会議にも出席していただいている	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	全職員地域住民であり地域役員をしている職員もあり地域情報に詳しい。区入りし区の行事、防災訓練には入居者全員参加しクリーン作戦には職員が参加した。地域行事には積極的に参加している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や他の視察研修時グループホームとしてできる事として認知症に対する理解の啓発目的に研修を実施し、実習の受け入れも積極的に行っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての事であり自己評価を全職員で行い、理解と業務の振り返りに活かし、外部評価の結果は全職員に伝えたい		家族配布及び運営推進会議での公表、又外部評価結果については全職員で話しあい、改善計画を作成していきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの質問や意見は会議の場で検討し理解していたいている。要望や検討事項などは今の所ない		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町からの問い合わせ時は即答している。管理者が町の地域包括支援センター運営協議会委員であり会議時報告説明を行っている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利事業や成年後見制度については代表もしくは管理者が対応予定であり全職員に研修は今の所行っていない		今後職員全員に理解を深められるよう内部、外部の研修の機会を設けていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し高齢者虐待防止に関する理解浸透に向けた取り組みを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明し同意を得るようにしている		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の言葉・表情・態度から思いを察する努力をし、職員で話し合いノートに記入している。ボランティアの方とお話をしている		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会、外出時報告と月1回菜の花便りと担当者から心身の状況や生活状況など手紙を送付、利用者毎にアルバム作成し来ホーム時いつでも見ていただけるようにしている		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会は設置していないが、面会時は必ず声かけし相談しやすい雰囲気心がけており、運営推進会議に出席していただいている。レ・ベキウ時家族同士のお話や意見などお聞きした。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回の全体会議と毎日のミーティングで意見を聞くようにしている		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入居者のペースに合わせたローテーションを組んでおり、管理者をフリーにし状態の変化に対応できるようにしている。それでも対応できないときは関連施設から応援に来ていただいている		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員移動や離職者は今の所いない		今後移動や離職者があった場合は引き継ぎなど最善の努力を行う予定である

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外〔地域・天草圏域・熊本県〕の研修は業務支障がないよう参加できるようにしている。研修報告は全体会議で発表している		資格習得についての働きかけも行っており、今後も協力していきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草圏域にグループホーム連絡会があるが開所間もなく現場優先しており、学習会や交流に参加していないが本体のグループホームより参加後情報など頂いている。町内の協議会には参加できている		今後参加する機会を設け質の向上に取り組みたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所は設けてなく常に利用者と密着しているが、面談時職員の意見を聞いている。又休日希望は100%取り入れた勤務計画を作成している		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場にきており利用者や家族と面談したり、職員個人の業務をはじめ、悩みなど聞くようにしている。現場に来れないときは管理者と連絡を取っている。		今後全職員に対する人事考課を実施しモチベーションの向上に活かしていきたい。また資格習得支援も積極的に行っていきたい
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前本人、家族と会い、状況把握を行ったり、ホーム見学を行っていただいている又在宅の場合は居宅ケアマネ、入院、入所の場合は担当職員から情報提供を行っていただき、退所時連携会議などに出席している。入居初期は本人との関わりを多く持ち気持ちなど探るようにしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の求めている事を理解し事業所としての対応のあり方など話合っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時思いや状況を確認し現在利用中のサービスの有無の把握を行っており、サービス利用中の人には担当ケアマネと連携を行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族、担当ケアマネなど事業所見学を行っていただき利用していただいている。馴染む間家族に泊まっていた方もいる。全職員地域在住であり知り合いが多い		地域在住職員でありなじみの関係は築かれているが、逆になれ合いにならないように職員間で留意し、尊厳の保持を保てるようにしていきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまで培ってきた事を教えていただくよう、畑作業や調理の味付け、献立など教えていただくよう声かけし一緒に行うようにしている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員のみでは生活を支える事は困難な場合があるため、面会時など生活状況を伝えたり、在宅での暮らしぶりを伝えていただいたりと本人を支える協力を依頼している		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時本人の日頃の状況を伝えたり手紙で伝えている。ホーム行事にもお誘いを行った。地域住民の利用者であるため面会も多く、希望時外出も家族と行っている		開設間もないため家族参加の行事は少なかったが今後はより参加できる企画を行いたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医や地域の理美容、スーパーを利用している。月命日のお墓参りなど行っている方もいる。なじみの知人、親戚など頻回に面会され又地域行事など出かけられるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	心身の状況や気分の変化をキャッチし皆で楽しく過ごす活動を行い孤立化しないよう職員が調整している。利用者のお世話をさせていただいたり、日々の食事やおやつの時間にはできるだけ多くの会話を持つようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療が必要となり入院された方にはお見舞いに行ったり、自宅訪問までは行っていないが、地域行事活動など家族と職員が交流時にはさりげなく様子を尋ねたり、相談に応じたりしている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情から真意を推しはかったり、家族から情報を得るようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで関わってきたケアマネ情報と本人との対話の中や家族、親戚訪問時に少しづつ聞き出している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の関わりの中での言動・行動など密に観察し全体像を把握できるようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、毎日のミーティングや個別経過録、月1全体カンファ・担当者の意見を反映し作成している。サービス担当者会議には本人・家族参加も行っている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の業務時観察や個別経過録や担当者からの聞き取りでもモニタリングを行い、状態変化時には計画変更を行う予定である		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人経過録や各チェック表に記録している。他に問題がある事に関しては毎日申し送りノートに記入し全職員が把握実践できるようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族、担当ケアマネなど事業所見学を行っていただき利用していただいている。馴染む間家族に留まっていた方もいる。全職員地域在住であり知り合いが多い		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティアなど運営推進会議に出席していただいたり視察に来ていただいた。警察・消防署には入居者の写真入り特徴を記載した一覧表を提供し緊急時の協力依頼している。消防署から救急処置についての講演実技を依頼し実施した。警察署にも特に職員が少なくなる夜間のパトロール強化をお願いしている		
	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院介助や同行など、週2は看護師他は管理者である准看護師が対応し安心していただけるようにしている。退所時連携会議出席し入院時は申し送りを行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には必ず地域包括支援センター職員が参加している。作成担当者は19,3月まで地域のケアマネ業務を経験しており地域資源には精通している。在宅復帰者が1名いたが、退去時には居宅担当ケアマネ及び地域包括に連絡し在宅支援依頼した		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医での治療を継続しており、家族と協同し通院介助を行っているが家族のみの場合は状況報告を行っている。家族が遠方や仕事がある方又一人暮らしの方はホーム職員で支援しているが結果は面会時にお話したり、手紙や電話でお知らせしている。また訪問診察を受けている方もいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居前からの専門医を継続受診しており、新たに専門的治療が必要な利用者には主治医に相談したり、家族の意向を踏まえ天草圏域の専門医療機関を受診している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を週2配属している。看護師がいない日は管理者である准看護師が日頃の健康管理を確実にやっている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時家族と共に主治医から治療方針、予定を聞き、医療機関担当者には本人の日頃の状況、留意事項など申し送っている。入院中はお見舞いと同時に担当者に状況を聞き、退院の予測や連絡を受けたり連携をしている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時看取りまで行う事を説明し同意を得ている。現在までに対象者の方が一人いたがかかりつけ医より医療入院が必要と指示ありできなかった		今後終末期利用者があれば、本人、家族、医療機関と連携を図りながら最期まで行う予定である
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時にはかかりつけ医療機関にすぐ対応していただけるよう連携を行っている		本人、家族の希望があれば看取りまで行う予定であり、家族を始め主治医と職員が連携し安らかな最期を迎えられるような支援を行っていきたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療機関など入院時は申し送りや訪問など行っている		今後住み替えがあった場合は事前の情報提供や情報交換、なじみの職員の訪問など実施していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職場会議などで利用者の誇りを大事にすることを話合っておりさりげない支援を行っているが完璧とはいかず、他の入居者の前で指示言動が聞かれる事がある	日々の関わり方など日々のミーティングや職場会議などで検討し利用者の尊厳を保つあり方など徹底していきたい
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人の言動・行動・表情などを読み取り、小さな事でも本人の意志を確認できるようにしている	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状況を配慮しながら柔軟な対応を行っている。気分が沈んでいる人など買い物・散歩・本人の好む会話など行っている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人と相談して衣服を決めたり、物事のある外出時はお化粧をしたりされている。本人・家族の希望を聞き地域の理美容室を利用されている	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材など頂き物の食材メニューを利用者と相談したり利用者や職員は食事と一緒にしている。食後の後片付けなど利用者の能力に応じ行っているが、やりたい方が多くトラブルを回避するため当番制にして職員と一緒にしている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこを飲まれる方はいないが利用者一人一人の嗜好食は把握しており、調理の工夫【刻み・ミキサー】を行っている。入居時食べられなかった物が少しずつ食べられるようになった方もいる	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、これまで常時オムツ使用や尿便意のない利用者のかたも日中は布パンツとパットなどに変更し時間誘導することで完全ではないがトイレで排泄が可能となるよう支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度の入浴日程は設定しているが、利用者のその日の意志を確認して入っていただいている。入浴拒否で入らなかった方には無理強いせず再度誘導や翌日誘導を行っている。【現在の所就寝時前希望の方はおられない】		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えている。寝付けない方には職員がそばで付き添ったり、添い寝したりと行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人の力を発揮して頂けるようできそうな事をお願いし感謝の言葉を伝えている。茶碗洗いの希望が多く利用者間の不満言動が見られたためトラブル回避に当番制を取り入れた。地域行事参加は本人、家族と相談し支援を行っている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持ち買い物時見守りで支払う方もいる。家族から預かり金を事務所で管理している方もいるが出納帳をつけ定期的に家族に確認して頂いている		事務所管理の方にも自分で支払いができるよう手渡ししたりして行きたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出やすいよう手すりつき庭を作っている。買い物・散歩・ドライブなど日常的に行っている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎週自宅外出されている方もいる。家族が遠方の方には職員が付き添い自宅外出も行った。地域の温泉や近隣の市町までドライブを兼ねて買い物も行えた		今後も利用者の希望を聞き身体負担にならない程度の外出支援を行って行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきをかいたり代筆依頼を行ったり、電話は本人が希望時は子機を居室に持って行き電話をかけたりかかってきたときは話されている		年賀状などだしたい方の希望を聞き支援したい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会制限などせず、家族などの都合が良い時間帯に気軽にいつでも訪問して頂いている又職員も笑顔で挨拶したりお話している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場会議で内部研修を行い職員全体が常に意識している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のみチャームをつけている。常に見守りを行い、外に出られるときはさりげなく声をかけ職員が付き添っている。帰宅要求の強い方には気分転換にレク活動や役割をお願いしたりしている、それでも要求が強く出て行かれる方には一緒に出かけ、家族と連携した方もいた		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室には鍵がついている。常に目が届くところで業務しているが部分的に届かないことがあり安全の回避ができなかった事もある		居室など目隠しなど工夫したい。本人の思い、行動を把握し目の届く所での業務徹底を行うよう職員間の共有した
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管管理が必要な物はドアやカーテンを引いている。利用者の状況を見極め注意が必要な利用者は常に見守りし危険因子はその都度回避している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し職員共通認識を図っている。事故発生の場合は家族に報告と説明を行い事故報告書を作成し、町にも提出している。消防署から来ていただき救急蘇生法の研修を行った		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修及びビデオ内部研修を、実施し全職員対応できるようにしている。		定期的に行っていききたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区の防災訓練に参加したり地域の協力体制については区の常会や運営推進会議でお願いしたり、職員の中に地区の人材もあり協力依頼している		消防署より立ち合いの下、防火訓練を行いたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用時抑制のない暮らしにはリスクが高くなる事を家族に説明し理解していただいている。当事業所で加入している保険など説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常的に健康管理を行い記録、変化時も管理者に報告し医療機関や家族に連絡をとり対応している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し職員が内容把握できるようにしている。服薬時は名前と量を確認、介助しきちんと服薬できたか確認し記録している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、繊維質の多い食品や乳製品を取り入れたり散歩などで適度な運動で排便できるよう取り組んでいる		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけを行い本人の力に応じて職員が見守ったり介助している。就寝前はホリデントにて除菌しているが拒む方には洗淨のみし装着している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日チェック表に記録している。かかりつけ医受診時報告したり指示受けを行っている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	排泄後・おやつ・食前・調理前など手洗いを実施しペーパータオルか個人のタオルなど使用している。ホーム内清掃手引きを作成し実施している		マニュアルや独自の手引き書などを作成していきたい。毎年インフルエンザの予防接種の実施・肺炎の予防接種を実施していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・ふきんなどはハイター漂白や天日干ししている。食器は拭いたあと乾燥機にかけている。食材の残りは早めに使い切るようにし、残飯は毎回素早く後始末、流し台や調理台は毎回清掃している。食中毒注意時期には生もの献立はさけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口のスロープ、手すりや玄関内は明るい雰囲気作りや畳イスをおき一休みしたり庭にはゴムチップ歩道、手すり、ベンチ、東屋などで一息ついたり、お茶をのむためのテーブルなど設置している。子供が遊べるアンパンマンの乗り物をおいている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンやサッシ・天窓から光を取り入れ旬の食材を取り入れた献立など五感や季節など感じられるようにしている 又浴室には「ゆ」ののれんトイレには緑ののれんやトイレ表示の張り紙をしわかりやすくしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室縁側・玄関・ウッドデッキにはイスを置きホームの空間には観葉植物や絵・置物・花など置き居心地の良い空間を作っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居申し込み時なじみの物を捨てずに持ってきていただくようお願いしている。写真や仏壇を持ち込み毎日お供えしたりと本人らしく生活できるよう配慮している。ご夫婦で入居されている方には居間と寝室を分けてくつろげるようにしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全施設24時間換気と備長炭埋没を床下換気[床下湿度60%]で空気のおよみや温度調節を行っている。職員優先とせず利用者の様子を見ながら冷暖房の調節を行っている。また排泄失禁時などはその都度清掃し臭いが残らず気持ちよく排泄できるよう留意している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台・流し台に高低差をつけ設置。屋内外手すり設置・玄関段差部分には赤テープで目印をつけたり、ホール内には大テーブルなどに捕まり歩けるよう設定し安全の確保と自立への支援をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前には名前の表示をしたリトイレにはトイレ表示や緑カーテンでわかるようにしている		個別性のある居室表示の工夫などもっとわかりやすい方法の検討を行いたい
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチや東屋などで涼んだり、日向ぼっこやお茶を飲むようにしている。車いすでも外気にふれることができるようスロープや歩道があり花壇、畑などでの活動や楽しみが行えるような環境がある		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居当初より笑顔が多くなった。開放的で地域交流やレク活動、外出などが多い。役割など意欲が出てきている。